

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「あなたなら、どう言う」 教材名「あなたなら、どう言う」

2 単元の目標

考えと理由の関係を理解し、相手に伝わる言葉を使うことができる。互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えと理由の関係を理解し、相手に伝わる言葉を使っている。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめている。（A(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

意見の違う相手へ伝える言い方を、目的と理由を確認して考える。丁寧だけでなく、相手の事情を聞くことも扱う。学習指導要領のA(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

実在の児童のけんかを再現せず、教師の架空場面で目的・言い分を分ける。本人の言い方を責めず、相手の反応を想像して別案を比べる。おおむね満足できる状況は、互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○架空場面の目的と立場を確かめる。言い方の案と理由を出す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○相手の反応を考えて比較する。	思①（発言・学習記録）
第3次	3	○共通の目的に合う表現をまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「同じお願いでも、相手の事情を聞いてからならどう言えますか」 【めあて】意見の違う相手へ伝える言い方を、目的と理由を確認して考える。 〈予想される児童の反応〉 ・命令だけでは理由が伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「同じお願いでも、相手の事情を聞いてからならどう言えますか」 相手の反応を考えて比較する。 場面の目的、双方の言い分、言い方の案、選んだ理由。自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・命令だけでは理由が伝わらない。 ・相手にも理由があった。 ・共通の目的が分かると別の言い方を考えられる。	実在の児童のけんかを再現せず、教師の架空場面で目的・言い分を分ける。本人の言い方を責めず、相手の反応を想像して別案を比べる。 想定するつまずき：正しい言い方を一つ暗記する、強い言い方で相手を従わせればよいと考える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・共通の目的が分かると別の言い方を考えられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「同じお願いでも、相手の事情を聞いてからならどう言えますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

